

浜松市におけるスクールソーシャルワーカーの 基盤強化研修 及び講師(教員)の質向上(第2年目)

大場義貴 1), 川向雅弘 1), 福田俊子 1), 佐々木正和 1) 1) 聖隷クリストファー大学

本事業は2021年度聖隷クリストファー大学地域連携プロジェクト費の採択を受けたものです。

【背景・概要】

2008年に文部科学省のスクールソーシャルワーカー(以下SSW)活用事業が開始した。一方で、急激な増員により様々な職歴、専門性の人材が任用されており、受け入れる学校側の戸惑い大きいことが懸念されている。

2019年度地域連携事業及び2020年度地域連携PJに実施したSSWの質向上のための研修結果から、SSWの基本的対応能力の向上と更なる深化の必要性が示唆されたため、引き続き社会福祉学研究科として『浜松市におけるスクールソーシャルワーカーの基盤強化研修及び講師(教員)の質向上(第2年目)』を2021年度地域連携プロジェクトに申請し、採択となった。(2019年度及び2020年度事業の成果は以下参照)

「静岡県内スクールソーシャルワーカーに対する専門的研修が 支援活動に与える効果の検証」(2019年度)

以下の4点の結論を得た。

- ① SSW研修の効果は、性別、年齢、エリア、参加回数に関係なく認められた
- ② SSWの資質向上には児童虐待・貧困対策等の研修と共にスーパーバイザー体制の強化が必須。
- ③ エリアの特徴を活かすことやエリア間格差の解消が急務
- ④ 複数機関の連携には「現状把握」「必要な合意形成」「連携の仕組みづくり」「評価・改善」「効果検証」というPDCAサイクルに則った取り組みが必要。

「浜松市におけるSSWの基盤強化研修及び講師(教員)の質向上」 (2020年度)

各回に横断的な多くの共通キーワード(参加者のリアクションペーパーより)

| | | | |
|---------|-------|---------|----------|
| アセスメント | 虐待 | 支援の空白 | スーパーバイザー |
| 身近な社会資源 | 家庭の現場 | アウトリーチ | スーパーバイザー |
| 地域 | 葛藤 | 高校との連携 | SSWの資質向上 |
| 見守り | 経験 | ヤングケアラー | 学校側の理解促進 |
| フォーマル | 気づき | 自己研鑽 | 巻き込まれ続ける |
| インフォーマル | 尊厳 | 総合力 | |
| 政策 | 成長 | 多機関連携 | |
| 医療 | 信じる | 協働 | |

【目的と対象・実施方法・研修内容】

- ① 目的と対象：SSW 16名を対象に本学教員が専門的研修実施。基盤強化を目指す。研修は昨年度から引き続き2年目。
- ② 実施方法：社会福祉学研究科(社会福祉学原理領域)が中心となり実施(Zoom・各回2~3時間)。
- ③ 研修内容：2020年度の研修を継続、発展。
第1回：SSWの視点確認と研修が支援活動に与える効果 / 大場
第2回：ソーシャルワークの組織論 / 川向
第3回：スーパービジョンの理論と実際 / 福田
第4回：精神障がい者の生活について / 佐々木
第5回：福岡市SSW事業の展開過程 / 奥村賢一(福岡県立大学)
(第5回は講師(本学教員)の質向上も兼ねSSWと本学教員も受講)

【結果】

無記名式、任意のウェブ回答方式の「リアクションペーパー」として、子ども・保護者へのアプローチ(3項目)、関係機関へのアプローチ(8項目)、学校組織へのアプローチ(15項目)、教育委員会へのアプローチ(4項目)を定型的設問(項目は山野2014を引用)とし、各研修受講後、これらに対し「そう思う」「ややそう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」から択一回答と感想を自由に記述して頂いた。各設問の回答が「そう思う」または「ややそう思う」である場合を1点とし、対象領域の平均値と割合を示した(結果は次グラフの通り)。

- * 回答者数は、第1回~第4回各回11名、第5回9名
- ** 平均値は、各回の総得点を、53(名)にて除した数
- *** 割合は、「そう思う」「ややそう思う」の割合

本日研修はSSWとしての支援に役立ちそうかと思うか(各)
回終了後の回答の平均値**と割合(%)***)

| SSWの対象となる領域 | 平均値(%) |
|------------------|----------|
| 1 子ども・保護者へのアプローチ | 9.4(88%) |
| 2 関係機関へのアプローチ | 8.7(82%) |
| 3 学校組織へのアプローチ | 8.6(81%) |
| 4 教育委員会へのアプローチ | 8.0(75%) |

■感想のカテゴリー化

| 領域 | 抽出されたキーワードの分類 | 抽出された課題 |
|---------------------------|---|---|
| ミクロ領域(個別事例へのアプローチ) | 振り返りの重要性 研修の連続性 経験年数差を支援の差にしてはいけない 利用者を取り巻く環境の把握 悩んだときは初心に立ち返る 全ての経験は身になる SSW同士つながることの重要性 ゆるがない自分の軸を持つ 支援のすべては対象者を知ることから 最善の結果を生むためのアプローチ 生育環境と心の発達のつながり 具体事例を知り理解を深める | ・対象者と環境の理解 ・SSWの資質向上 ・SSWどうしのつながり |
| メゾ領域(校内体制作りへのアプローチ) | 教育現場を知りニーズを理解することが自信につながる | ・教育現場をよく知る |
| マクロ領域(子ども家庭支援体制作りへのアプローチ) | よりよいSSW事業のための課題の洗い出し | ・よりよいSSW事業のために |

【結論】

- ◎ 「子ども・保護者へのアセスメント」についてこの度の研修が「役に立った」88%
- ◎ 「対象者と環境の理解」、「SSWの資質向上」、「SSWどうしのつながり」、「振り返るきっかけ」、「自分の軸」、「迷うことの肯定」⇒ミクロ領域キーワード多数

SSWの基盤であるミクロ領域に対し本研修の効果は認められた

一方、本来SSWの後ろ盾である教育委員会とのつながりを強めることについて、本研修が「役に立った」と答えた者は4分野の中で最も低く75%であった。また、抽出された課題もミクロ領域と比べ、メゾ領域、マクロ領域は少ない。これらから、校内体制作りや教育委員会とのスムーズな連携促進には課題が残ることを表していると考えられる。

結論

SSWの基盤であるミクロ領域に対して、本研修の効果は認められた。今後、メゾレベル、マクロレベルの研究や研修が必要になり、本学としても継続的な連携協働が求められる。

【研究協力者】

- 平川悦子 / 浜松市教育委員会指導課スクールソーシャルワーカー・スーパーバイザー
- 長坂聖子 / 浜松市教育委員会指導課スクールソーシャルワーカー